

## 夏場におけるほだ木等の管理

### 1 はじめに

夏場から秋にかけての暑い時期にはホダ木の腐朽が促進されます。これによってシイタケ菌がホダ木内の栄養分を摂取しやすくなり、後に原基(きのこの芽となるもの)の形成が盛んになります。

原基が盛んに形成される条件としては、明るいホダ場において、日平均気温約20度、適度な降雨が必要です。

冷夏の場合には、腐朽が進まないため後の原基形成が進まず、秋や翌春の発生に影響しますが、幸いこの夏は冷夏ではありませんでしたので、次に掲げる点に注意して作業を進めてください。

### 2 腐朽目的の散水

立秋を過ぎると、二百十日(本年は9月1日)を中心に台風や秋雨前線の影響で一般に雨の日が多くなります。

しかし、年によって暑さが続き、降雨が少ないこともあります。このような場合には散水により降水不足を補います。

暑い時の腐朽促進を目的とする散水は、朝または夕方に数時間程度行います。

ただし、あまり頻繁に散水すると、ホダ木が年齢より老いた状態になりますので、ホダ木の状態を見ながら適度に行ってください。夏場の散水は1～2回で十分であると言われています。

### 3 原基形成目的の散水

平均気温が20前後になると原基形成が盛んになります。この時期に形成された原基は、秋子や来年の春子になるものです。

原基数が多いほど発生個数が多くなりますので、この時期には原基形成を促進させる作業を行います。

降雨が適度にある場合には散水は必要ありませんが、降雨が少ない場合には散水を行いホダ木に水分を与えます。この場合目安として、ホダ木の重量が前年と同じくらいになるまで吸水させます。

### 4 災害への備え

二百十日前後は、例年豪雨や台風などの災害が発生しやすい時期です。この時期には、豪雨や暴風対策が必要です。

天気予報をこまめにチェックし、台風や秋雨前線の襲来が予想される場合には、早めに施設を補強したり、場合によっては資材を撤去することも必要です。台風や豪雨による被害が出始めてからでは大変危険です。

#### (1) 人工ホダ場

- ・ 遮光資材や防風資材の補修  
穴があいている場合には、そこから強風が吹き込み被害が拡大することがあります。

- ・ 雨除け資材

台風にあおられたり、豪雨により雨水が溜まると破損します。雨除け資材は巻き上げてあおられないようにしばってください。

#### (2) 林内ホダ場

- ・ ホダ木の流亡対策

豪雨の場合、作業路などに濁流が流れ込みホダ木が流された例があります。周辺の状況を調べ、豪雨時にホダ場や伏せ込み場に豪雨が流れ込む危険がある場合には、早めに高台に避難させます。

### 5 天地返し作業

秋雨の時期には、伏せ込み場やホダ場のホダ木の天地返しを行います。

伏せ込み場での天地返しは、原木内にシイタケ菌系を行き渡らせることが目的であり、ホダ場では発生面と未発生面を入れ替えることが目的となります。

天地返しの作業が困難な場合は、原木の木口面を半回転させて発生面と未発生面を入れ替える「ホダ回し」を行ってください。

(担当 上席専門研究員 小原孝文, 専門技術員 伊東茂敏)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-697-1536  
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410  
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>